

「北九州市立大学同窓会 長期構想」

- 2007（H19）年8月  
長期構想の最終答申《山下建治会長 ← 千綾奉文・長期構想検討委員会委員長（大支部長）》
- 2007（H19）年10月27日  
平成19年度第2回評議会で承認
- 【北友会会報97号】《2007年（H19）年12月15日：発行》  
北友会会報96号で「中間報告」をお知らせした「北九州市立大学同窓会 長期構想」が、各支部から頂いたご意見なども参考にして最終答申されました。会長は、この答申を最大限尊重すると表明され、その後これを役員会および評議会に諮り、いずれの段階でも承認されました。この結果、正式に私たちの同窓会の今後の活動指針となりました。

=====

■北九州市立大学同窓会 長期構想■

★答申書の表紙に記したスローガン →⇒「大学と共に！ 多世代で和む同窓会！」

1 前 文（基本的な認識）

- 私たちの母校は・・・
  - ・2001年「北九州市立大学」と改称し  
「ひびきの」に国際環境工学部が設置され
  - ・2005年には「公立大学法人」となり  
全国に注目される「教学改革」が進行中です
  - ・現役留学生は200人を超えるなど  
国際化も勢いよく進んでいます
- 同窓会を取り巻く環境は・・・
  - ・母校創立から60年を経過し
  - ・会員数は46,000人を超え  
世代間の距離が目立つようになり
  - ・個人情報保護によって  
会員情報の共有も難しくなるなど  
活動環境が大きく変化しています
- 本部や各支部活動の最前線においても・・・
  - ・「北方」と「ひびきの」卒業生の一体感が保ち難い
  - ・若い会員や女性会員の活動参加が少ない
  - ・支部長の役割と権限がはっきりしない
  - ・同窓会会費の未納者は減少せず  
新入学時の納入が漸減傾向といった  
問題点が顕在化してきました
- このような問題点には対処療法ではなく  
腰を据え、将来を見据えた取り組みが必要です

## 2 三つの合言葉と五つの挑戦項目

そこで私たちは・・・

「楽しい」「役立つ」「未来志向」を合言葉に

次の五つに軸足を置いて、チャレンジ（行動）していきます

### 【ファイブ・チャレンジ】

- I 継続的発展
- II 多世代の会員の積極的参画
- III 透明で開かれた活動
- IV 環境の変化に適応した運営
- V 安定した財政基盤整備

## 3 具体的な目標

【凡例 = 取り組みのスピード区分 ・ ・ A、B、C】

(A) 平成19年度秋の評議会を目途に、急いで取り組むべきもの

(B) 平成20年度秋の評議会を目途に、じっくり検討すべきもの

(C) 継続的、長期的に腰を据えて取り組むべきもの

### ● チャレンジ・I →⇒ 継続的発展に向けて・・・

- ① 本部・支部活動において、地域との連携を密にします ・ ・ ・ ・ ・ (C)  
\* 「同窓会ここにあり！」を大いに発信します
- ② 支部長の役割と権限を明確にします ・ ・ ・ ・ ・ (A)  
\* 会則等検討委員会に「支部長は評議員を兼ね、支部長に責任と権限を付与する」規定の改正・整備を諮問します  
\* 会則等検討委員会の答申を踏まえた改正案を作り、評議会で改正内容を表決します
- ③ 本部・支部の役員に若い会員、女性会員を積極的に登用します ・ ・ ・ ・ ・ (B)
- ④ 各地域の就職支援活動をさらに拡充していきます ・ ・ ・ ・ ・ (A)
- ⑤ 同期会、サークル・ゼミOB会などの組織との有機的な連携を図ります ・ ・ (B)
- ⑥ 同窓会の法人化に向けた研究をします ・ ・ ・ ・ ・ (C)

### ● チャレンジ・II →⇒ 多世代会員の積極的参画に向けて・・・

- ① 北友会会報をバラエティー豊かな楽しいものにします ・ ・ ・ ・ ・ (A)  
\* 地域の特産品宅配や同窓生格安交流ツアーなど、魅力ある付加価値を研究します
- ② 学生会員やサークルに協力を求め、魅力あるホームページにします ・ ・ ・ ・ (B)
- ③ 学生会員の中から本部役員を登用します ・ ・ ・ ・ ・ (B)
- ④ 支部では新卒者を招待し、「歓迎会」を開きます ・ ・ ・ ・ ・ (A)
- ⑤ 各界で活躍中の会員をリストアップし、「講演会」などの各種イベントへ協力いただきます ・ ・ ・ ・ ・ (B)

### ● チャレンジ・III →⇒ 透明で開かれた活動に向けて・・・

- ① 北友会会報やホームページで、活動報告や会計報告を分かりやすくお知らせします ・ ・ ・ ・ ・ (A)
- ② ホームページの「会員の声」欄を充実させ、広く提案や意見を求めます ・ ・ (A)
- ③ 「支部活動運営ノウハウ(Q&A方式)」や「各支部での工夫例」を作成します ・ ・ ・ ・ ・ (B)

● チャレンジ・Ⅳ →⇒ 環境の変化に適応した運営に向けて・・・

- ① 本部運営組織の整備を図ります・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (B)
- ② 校歌が「ひびきの」キャンパスにも配慮したものになるよう大学当局に働きかけます・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (C)
- ③ ひびきのキャンパスに同窓会事務局分室の設置を検討します・・・・・・・・ (C)
- ④ 中心市街地に同窓会のサテライト事務局の設置を検討します・・・・・・・・ (C)
- ⑤ 後援会と協働し、学生会員および留学生への支援を拡充します・・・・・・・・ (B)

● チャレンジ・Ⅴ →⇒ 安定した財政基盤整備に向けて・・・

- ① 入学時に同窓会の会費未納者（学生会員）の保護者あてに簡易版の北友会会報をお届けし、活動に理解をいただきます・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (B)
- ② 同窓会の会費未納者には北友会会報の簡易版会報のみを送付し、完納者と区別した対応を行ないます・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (B)
- ③ 財産の一部について安全で有効な運用方法を研究します・・・・・・・・・・ (C)
- ④ 北友会会報およびホームページへの広告を募集します・・・・・・・・・・ (B)
- ⑤ 北友会会報やホームページに寄付金・篤志案内を行います・・・・・・・・ (B)
- ⑥ 既卒者の同窓会会費完納時の記念品寄贈を見直します・・・・・・・・・・ (A)

4 むすび

挑戦項目ごとに

取り組みのスピードで三つに区分して掲げた3～6項目の

具体的な行動目標は

今後、具体的な行動計画（アクションプラン）で

さらに分かりやすく明確にし

同窓のみんなで同じ方向をめざし

「楽しく」「役に立つ」「未来志向」の同窓会にしていきます

以 上

## 北九州市立大学同窓会 第二次長期構想

(注) 以下の記述の中では現・長期構想に代わる新たな長期構想を「第二次長期構想」と記すこととする。

### 1 前文

私たちの母校は・・・

- ・2001年に「北九州市立大学」と改称し  
2005年には「公立大学法人」となり  
全国に注目される「教学改革」が進行中です
- ・現役留学生は250人規模に達するなど  
国際化も勢いよく進んでいます

同窓会を取り巻く環境は・・・

- ・母校創立からすでに65年  
「ひびきの」に国際環境工学部が設置され12年が経過し  
会員数は54,000人を超え  
世代間の距離が目立つようになり
- ・個人情報の保護によって  
会員情報の共有も難しくなるなど  
活動環境が大きく変化しています

本部や各支部活動の最前線においても・・・

- ・若い会員や女性会員の活動参加が少ない
- ・同窓会費の未納者は減少せず  
新入学時の納入が逡減傾向といった  
問題点が顕在化してきました

このような問題点には対症療法ではなく  
将来を見据えた取り組みが必要です。

### 2 三つの合言葉と六つの挑戦項目

そこで私たちは・・・

「楽しい」「役に立つ」「未来志向」を合言葉に

次の六つに軸足を置いてチャレンジ（行動）していきます

- チャレンジⅠ 「将来の確かな発展に向けて」
- チャレンジⅡ 「誰にも開かれ身近で親しまれる活動」
- チャレンジⅢ 「多世代会員の積極的参画」
- チャレンジⅣ 「人的ネットワークを活かした活動」
- チャレンジⅤ 「同窓会を取り巻く環境の変化に適応した運営」
- チャレンジⅥ 「安定した財政基盤整備」

## 4 長期構想を実施するにあたって

### (1) 長期構想の計画期間

- 長期構想そのものが計画である以上、一定の区切り（期間）を設けることとする。これにより長期構想で掲げた目標がより明確になり、計画の進捗状況が把握しやすくなる。
- 始期は2014年（平成26年）4月からとし、2021年に同窓会が発足70周年を迎えることも考慮し、2019年までの6年間をこの長期構想の期間とする。

### (2) 長期構想の共有化とその実現のための方策

- 同窓会活動の指針としての長期構想は、会員間の共有化がなされてこそ実現する。したがってこの構想を分かりやすく解説した冊子を作成し会員に配布し、または長期構想の進捗情報をタイムリーに提供するなどもひとつの手段であろう。

### (3) 長期構想のPDS（Plan=計画 Do=実行 See=評価）

- 本部役員会は前年度の長期構想の実施状況を検証し、次年度の実行計画を定める必要がある。本部役員会で方向づけられた実行計画は評議会において議決承認を受け、当該年度の「運営・活動方針」および「事業計画」に反映させることを要望する。

3 挑戦項目・具体的行動計画

挑戦項目		挑戦項目を実現するための具体的行動計画		
区分	内容	項番	区分	内容
挑戦Ⅰ	<b>将来の確かな発展に向けて</b> ●同窓会が掲げた活動指針に沿ってこれからも活発な同窓会活動を継続していくために、先々想定される課題への対応や将来を先取りした体制づくりなどに努める。	1	修正	地域貢献などを通じ本・支部活動の地域との連携を密にする。 *会員の地域での社会貢献活動を調べ、同窓会活動の趣旨に合致するものについて共に輪を広げる。 *大学側の活動に同窓会が加わる。
		2	新規	同窓会活動の更なる発展のため組織・制度の見直しを行う。
		3	新規	安定的な同窓会財産（ハード）の維持・確保に努める。
		4	新規	将来の安定的な財源確保に努める。
挑戦Ⅱ	<b>誰にも開かれ身近で親しまれる活動</b> ●同窓会会員の誰もが何時でも気軽に参加したくなるような魅力ある同窓会活動を展開していく。	1	新規	支部総会をはじめ種々の支部活動に参画しやすい環境づくりを本部との協働により積極的に取り組む。 *年長会員も生き生きと活動できる環境づくりを進める。 *学生会員が関心を示すテーマで同窓会主催の講演会やシンポジウムを開催するなどし、同窓会を身近に感じてもらう。
		2	新規	評議会後の「支部活動意見交換会」で出された意見など、支部活動に役立つ様々な情報を広く支部会員で共有する。
挑戦Ⅲ	<b>多世代会員の積極的参画</b> ●現・同窓会活動において最重要課題と位置付けその対応に苦慮しているのが、若年会員や女性会員の同窓会離れとこれへの対応である。依然として歯止めがかかっていないのが実情で、これまで以上に本・支部が一体となってきめ細かな対策を継続的に実施していくとともに思い切った打開策も必要とされる。	1	修正	広報活動の充実を図る。 *会報とH・Pのそれぞれの特徴を活かした活動を展開する。 *新入生歓迎号や卒業祝賀号の発行などで学生会員へより一層同窓会活動をアピールし、同窓会を身近な存在と受け止めてもらう。 *H・Pとの棲み分けを図りつつ紙面の充実を図る。 *活動結果の報告に加え、イベントなど今後の案内記事も掲載する。
		2	修正	学生会員へのアプローチや支援のあり方について検討する。 *学生会員が関心を持つH・Pを作成する。 *同窓会のH・Pに学生やサークルからの情報が提供できる手段を講じる。
		3	修正	現・学生側（学友会など）の組織の中に同窓会担当の設置を働きかけるなど、学生との情報交換を密にする。
		4	修正	支部では新卒者を中心に新会員の勧誘に取り組むほか、支部活動に参加しやすい工夫をするなどして、新会員を増やしていく。
		5	新規	若年会員や女性会員の拡大を図る。 *本・支部役員へ若年・女性会員を積極的に登用する。
		6	新規	学生に対する支援・フォローを充実する。
		7	継続	「支部活動運営ノウハウ（Q&A方式）」や「各支部での工夫例」を作成する。
挑戦Ⅳ	<b>人的ネットワークを活かした活動</b> ●5万人を超える同窓生が全国各地で様々な分野で活躍している。この人的資源を活用した同窓会活動こそが“同窓会ならではの”であり“同窓会の強み”である。特に現役学生に対しては就職に関わる多面的な支援事業が期待できる。	1	修正	本部及び各支部での就職支援活動を拡充する。 *大学と共同して同窓会館1階スペースを活用し、同窓会主催の就職説明会や相談会を開くなど就職支援に取り組む。 *各地域での就職支援活動の充実を図る。
		2	修正	同期会、サークル・ゼミOB会等組織との有機的連携を図る。
		3	継続	各界で活躍中の会員をリストアップし、「講演会」等イベントへの協力を依頼するなど、同窓会活動への支援要請を行う。
挑戦Ⅴ	<b>同窓会を取り巻く環境の変化に適応した運営</b> ●同窓会活動を円滑に運営していくため、大学はじめ同窓会と関わりを持つ相手（団体など）とも常に良好な関係を維持していく。特に大学とは可能な限り情報を共有しつつ、同窓会として大学発展のため効果的な役割りを果たして行く。	1	継続	後援会と協働し、学生会員への支援体制を強化する。
		2	新規	大学や学生（団体）との連携強化を図る。
		3	新規	大学、同窓会、後援会の三者会談などの連携を密にする。
挑戦Ⅵ	<b>安定した財政基盤整備</b> ●一定レベルの活動を維持していくには安定的な収入の確保が欠かせないし、支出面では無駄のない効率的な予算配分と執行が求められる。また、先々の収支環境の変化を見通した資金確保にも努めねばならない。	1	新規	会費未納学生に対し効果的な納入促進策を検討する。
		2	継続	安全有利な財産運用に努める。
		3	新規	既卒会費未納者対策として、引き続き3年間の強化期間を設け会費完納を働きかける。
		4	新規	財産の効率的な運用を図る。

継続： 4  
 新規： 12  
 修正： 7

# 第三次長期構想

これまで6年間、同窓会活動の指針となっていた第二次長期構想が2020年3月で終了するのに伴い、善正善会長は2019年10月、次の6年間の指針となる第三次長期長期構想の素案策定を、「構想・計画の評価検討プロジェクトチーム」の千綾奉文委員長(大分支部長)に諮問した。

第三次長期構想をスタートさせる2020年4月まで時間は限られていることから、諮問を受けたプロジェクトチームは基礎資料を整え、同年12月から精力的に検討を重ねた。

まず、第一次長期構想から一貫している3つの合言葉「楽しい」「役立つ」「未来志向」を引き継ぐことにし、そのうえで同窓会本部、支部、あるいは本部都市部が一体となって取り組むべき「チャレンジⅠ～Ⅵ」の6項目とそれらを実現するための具体的行動計画(具体的目標)23項目について厳しく再評価、見直しをするとともに、その表現もできる限り柔らかく、分かりやすくした。

さらに具体的目標を実現するための活動例(着手済みを含む)を目標ごとに列記、取り組みやすくした。もちろん、この活動例は支部の活動を縛るものではない。目標実現のために、支部が地域の状況に応じて独自の発想と方法で新しい活動をされるのは自由である。

プロジェクトチームが策定した素案は令和2(2020)年4月に善会長に答申。役員会で素案を了承したうえで評議会に提案し、原案通り承認された。

## 北九州市立大学同窓会 第三次長期構想

### I これまでの長期構想の策定経緯

	長期構想検討(修正)に至った背景・経緯	3つの合言葉 「楽しい」 「役立つ」 「未来志向」	長期構想のスキーム
<b>第一次 長期構想</b> H19年10月～ H26年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本部支部で共有できる基本的な考えや目標がなかった(要は、本部と一部の支部がギクシャクしていた)</li> <li>●会員の力を結集する貫く方針が明確でなかった(自分勝手な同窓会のあるべき論が横行していた)</li> <li>●大学が独立行政法人となった</li> </ul>	●3つの合言葉 「楽しい」 「役立つ」 「未来志向」	●5つの挑戦項目と28項目の具体的目標 1 継続的發展 2 多世代会員の参画 3 透明で開かれた活動 4 環境変化に適応した運営 5 安定した財政基盤整備
<b>第二次 長期構想</b> H26年11月～ R 2年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第一次構想が必ずしも活動全般に浸透していなかった</li> <li>●5年を経過し、目標や計画達成度を評価する必要があった</li> <li>●行動計画に今日的な課題を盛り込む必要があった</li> </ul>	●3つの合言葉 「楽しい」 「役立つ」 「未来志向」	●6つの挑戦項目と23項目の具体的行動計画 1 将来の確かな発展 2 誰にも開かれ身近で親しまれる活動 3 多世代会員の積極的参画 4 人的ネットワークを生かした活動 5 取巻く環境変化に適応した運営 6 安定した財政基盤整備
<b>第三次 長期構想</b> 又は <b>改訂第二次 長期構想</b> R 2年4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はたして「楽しい同窓会」になっているか？(義理や責任感から「集める」同窓会になっていないか？)</li> <li>●会員・大学に「役に立つ同窓会」になっているか？(行事参加者の固定化・高齢化で広がりには限定的)</li> <li>●「未来志向」の同窓会になっているか？(行事参加者は横ばい若しくは減少・固定化(高齢者・男性中心の傾向が続く))</li> </ul>	●3つの合言葉 「楽しい」 「役立つ」 「未来志向」	●今回の検討手法 * 4つの挑戦項目ごとに具体的に「何」をすべきかを自由に羅列した役員研修会結果を参考にして具体的行動計画修正 → 挑戦項目検討へ遡る * 評価票の指標を参考に具体的行動計画をブラッシュアップして → 挑戦項目検討へ遡る

### II 前 文

- 私たちの母校は
  - ・令和の時代を迎え、すべての学部や大学院で新しいカリキュラムをスタートさせるなど、時代に即した総合大学として発展を続けています。
- 同窓会は
  - ・2021年1月に創立70周年を迎え同窓生は6万人を超え、男性と女性の比率は3:2になっています。
- 第二次長期構想の評価にあたっては
  - ・改めて「楽しい」「役に立つ」「未来志向」になっているのかを考えました。
- 第三次長期構想では
  - ・この評価をもとに、誰もが無理なく楽しく参加できる同窓会を目指すため、4つのチャレンジ項目と13の具体的目標を掲げました。
- 第三次長期構想の実施期間
  - 令和2年(2020年)4月～令和8年(2026年)3月

### Ⅲ チャレンジ項目・具体的目標・活動例(着手済を含む)

チャレンジ項目		項番	具体的目標	活動例(着手済を含む)
チャレンジⅠ 持続可能な活動のために	活発な活動を長期的に続けることができるように将来を見据えた組織づくりに取り組む	1	組織や制度のあり方を必要に応じて見直す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一般社団法人」への移行</li> <li>・「若者の会」「女性の会」の設置</li> <li>・「夢に向かって～チャレンジGOGO」制度</li> </ul>
		2	環境に配慮し地域(社会)に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の地域貢献活動に協力</li> <li>・スポーツイベントの応援やボランティア活動</li> </ul>
		3	大学との連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の運営計画に同窓会の役割を組み込む方途を検討</li> <li>・奨学金制度</li> <li>・サークルへの褒賞金制度</li> <li>・卒業生の在籍企業情報収集</li> <li>・大学祭への参加</li> </ul>
		4	安定的な財源確保と財産管理を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会館の維持管理</li> <li>・会費完納者と未納者の区別化</li> <li>・預貯金の安全運用</li> <li>・支部総会などの案内方法を再検討する</li> </ul>
チャレンジⅡ 親しまれる活動のために	誰もがいつでもどこでも気軽に参加できる環境を充実させる	5	支部活動に参加しやすい環境づくりを進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支部総会以外の活動(食事会、ゴルフ会など)への参加費補助</li> <li>・支部の工夫事例、成功事例の共有化(例:行事企画や運営を職域(企業)ごとに振り分ける)</li> <li>・支部役員の功労表彰を支部総会等で伝達</li> </ul>
		6	学生会員の関心をひく情報提供や支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢に向かって～チャレンジGOGO！」制度(再掲)</li> <li>・卒業式、入学式で同窓会をアピール</li> <li>・総会や支部総会への学生参加(運営を含む)</li> <li>・奨学金制度、褒賞金制度(再掲)</li> <li>・「若者の会」「女性の会」などへの学生参加</li> </ul>
		7	広報活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE、メルマガやFB(Facebook)による情報提供(イベント情報、学生の活動なども)</li> <li>・会報やホームページの適時リニューアル</li> </ul>
		8	多世代化を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性や若年層を役員にする</li> <li>・シニア層の参画を支援する仕組みづくり</li> </ul>
チャレンジⅢ つながりを強めるために	ネットワークを活かして活動の幅を広げる	9	同期会、サークル会、ゼミ会などと連携する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表メンバーを把握し、情報を共有する</li> </ul>
		10	学生会員の就職支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の在籍企業情報を学生会員に提供できる仕組みづくり</li> </ul>
		11	支部間の交流を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各支部間でのツアー交流</li> </ul>
チャレンジⅣ 安定した財政を維持するために	財源の確保と堅実な財産管理を継続する	12	安定的な財源確保と財産管理を行う(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一般社団法人」への移行(再掲)</li> <li>・同窓会館の維持管理</li> <li>・会費完納者と未納者の区別化</li> <li>・預貯金の安全運用</li> <li>・支部総会などの案内方法を再検討する</li> </ul>
		13	会費未納者へ完納を働きかける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未納者あてに年1回納付書を送る</li> </ul>